松尾育成会便り

平成25年度
第29号
松尾地区まちづくり委員会
公民館育成部
青少年健全育成会

劇「松尾小の宝」再演で、牧野市長も感動！

寺所 三嶋 潤

七月七日、猛暑の松尾小学校体育館にて、「劇『松尾小の宝』を見て 松尾小の校歌と松尾村歌を語る会」が行われた。

現六年一組の生徒達は、松尾小の歴史である多くの宝を、たくさんの方に知ってもらおうと、昨年の「第二十六回伊那谷文化芸術祭」でこの演劇を発表し、劇場は座れないほどの盛況だった。この度、その再演が依頼され行われた。

内容は、松尾小で肝試しをしていた児童がタイムスリップして、校内にある龍の彫刻や、学校目標「まけるな」、オオサンショウウオ、風越プール遭難事故、塩むすび遠足、土俵作り…等が、どう学校にまつわっているのかを知っていく。

来席した牧野市長は、「松尾小には素晴らしい宝があることを学ばせてもらった。とても感動した。是非、後世に伝え、〝まけるな〟の精神をずっと忘れないでいてほしい。」と語られた。

いい演技ができた！

六年 林 拳人

ドアから体育館を見ると、松尾の人たちが大勢きていたのでとてもきん張しました。でも、みんな舞台にでたら、きん張をまったくしていないような演技をしていました。それに負けずと中川校長先生の演技をしたら、きん張が無くなりとてもいい演技ができました。

最高にするために…

六年 三嶋 らな

松尾小の宝は、去年も同じ場所で演じたことがありました。楽屋の中の音も聞こえてしまうし、うしろが見えてしまいます。なので、工夫に工夫を重ねて、前も見たけど、その人達にも楽しんでもらえるようにもこめて、セリフをセリフではなく言えるようにも練習しましたが、面白くなるポイントにもなる動作も工夫しました。つなぎの役なので、出るタイミングも工夫しました。できることはできたので十分楽しんでいただけたと思います。

本当の「松尾小の宝」

松尾小学校六年一組担任 北澤 裕美

「松尾小の宝を伝えたいな！」子ども達の願いから始まり、より詳しく調べ、子ども達自身で台本を書き、劇を作りました。その過程の、子ども達のやる気と情熱、行動力と粘り強さに、私は担任ながら感激しました。地域から教えてくださる方々を自分達で見つけ、依頼し、尽きることなく質問する姿。伝えるという信念の故に、小さな地声を鍛え、何度でも繰り返し表現を磨いていく姿。最後のシーンで倉科斧吉先生の「本当の松尾小の宝は、君達、子どもだよ」は、私担任から子ども達に贈る言葉です。

地区だより

新井地区

夏のお楽しみ会

支部長 村澤 政彦

晴天に恵まれた弁天公園には、今年も元気いっぱい子供たちの声が響きました。チームに分かれてゲームや宝探しをし、夜には花火をしました。特に六年生がオバケ役をつとめる肝試しでは、あまりの怖さにシクシク泣きだしてしまう一年生の姿もありました。

一年 むらさわみゆき

いちねんせいになってから、はじめてのおたのしみかい、たのしかったです。とくにたのしかったのは、すたんぷらりーです。らいねんのきもだめしは、がんばりたいです。

五年 古島 京悟

まず最初は、宝探しがありました。ふくろの中に、お宝引きかえけんと、アメが入っていて、お宝は、光るブレスレットでした。けっこう探すのが大変でした。次に、ナン作りがありました。毎年カレーライスでしたが、今年は、ナンでカレーを食べました。もちもちしていて、おいしかったです。次にスタンプラリーがありました。神社の周りや、石碑、ブランコを回って、スタンプをあつめるゲームで、楽しかったです。次にきもだめしです。仮面をかぶった人や塩水をかけている人がいたけど、塩水は目にしみたので、来年はやらないようにしたいです。

今年も、とても楽しかったので来年もがんばって楽しいお楽しみ会にしたいです。

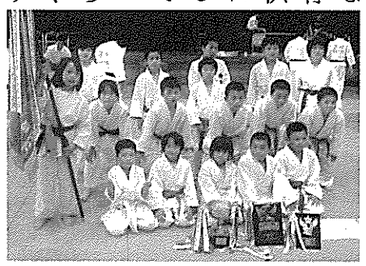
クラブ・教室だより

松尾公民館柔道クラブ

子供達の可能性

八幡 井川 晃

皆さんは、「ブリッジの体勢で前後左右に歩く」なんて事ができますか。自宅でやってみて下さい。どれだけ難しいかわかって頂けると思います。そんな事を保育園の子供が普通にやってしまうんです。



もちろん、すぐにと言うわけではありません。少しずつですが、毎回やっているうちに知らない間にできてしまうんです。

これはほんの一例ですが、子供達の可能性には驚かされる事ばかりです。

松尾公民館柔道クラブは、毎週火曜日、金曜日の午後七時から八時半まで、松尾支所横のミニ体育館で稽古しています。ぜひ一度のぞいてみて下さい。

松尾キンボールクラブ

「スポーツは楽しいよ」

会長 田中 利治

「松尾キンボールクラブ」は平成十七年の夏に『健康作り、仲間作り、子供の健全育成』を目標に設立し、今年の夏で九年目に入ります。小中学生から一般まで約五十人が所属し、毎週木曜日に緑ヶ丘中学校で練習しています。県内でも強豪チームとなり、常に優勝を狙っています。

キンボールは、日本に紹介されてからまだ十六年という新しいスポーツです。百二十二センチの大きなボールを使い、一チーム四人の三チームが対抗。コート内を走り回ってヒットやレシーブを繰り返しボールを落とさないようにします。

競技を通して、自分の身体を自由に使いこなせるようになり、スポーツが大好きになります。クラブのメンバーは、仲間とのコミニュケーションを大切にし、時間と空間を共有して、子ども達と大人達が一緒に汗を流しています。是非、キンボールを体験してみて下さい。

驚きと発見！
～松尾の川の水中生物をつかまえよう～

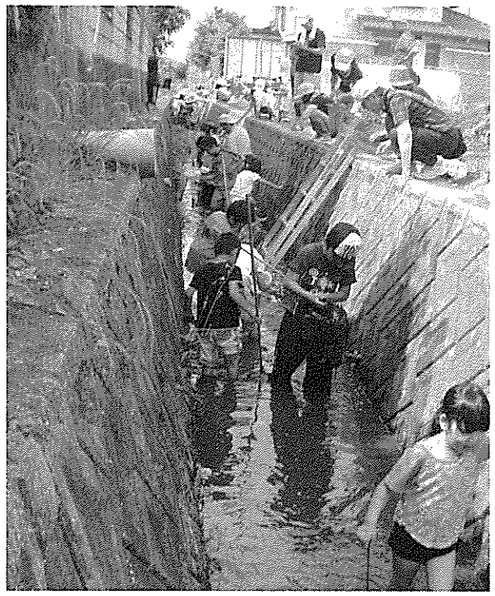
上溝　福澤　秀明

六月十五日、梅雨の晴れ間の中「松尾の川の水中生物をつかまえよう。」が開催され、約三十名の子供たちが参加しました。

まず始めに、公民館前にて、講師であるかわらんべの久保田先生から、水中生物について、写真や図を使い詳しく教えていただきました。

その後、中溝川へ移動し、水中生物を捕まえました。

初め、なかなか捕まえることができず苦戦していましたが、久保田先生よりコツを教わると次々と捕まえる子供達、「ドジョウが捕れた。」と声を上げ、楽しそうに捕まえていました。その後、公民館へ移動し、水中生物を一つずつ、久保田先生より説明を受けました。約二十二種類の生物がいることがわかり、子供達は「こんなにいるのか」とびっくりしていました。貴重な体験ができ、初夏の一日を楽しく過ごしました。



寺所　前川　正博

子供に水中生物を捕まえ、触れてもらいたいと思い、参加させてもらいました。子供も初めて見る生物などに夢中になり、私も想像以上に多くの生物が生存している事に驚きました。親子共に貴重な体験をさせていただきました。

水中生物をつかまえよう

六年　三沢　らん

私は松尾の川の水中生物をつかまえようというイベントに参加しました。元々私は水中生物が好きという訳ではありませんが、いい機会なので参加してみようと思いました。松尾の川には様々なおもしろい水中生物がいるということと、水中生物をつかまえて遊ぶという楽しさを学びました。最後には、先生のお話を聞きながら水質検査をし、川の水のきれいさを調べました。これからも、水中生物がたくさんいて、皆が楽しく遊べ、そして学べる、そんな松尾の大切な川を私たちで守っていこうと思いました。

松尾の美しい宝

六年　相川　ゆり華

私は、「水中生物をつかまえよう」に参加しました。

元々私はずっとこっちに住んでいなかったので、どんな生き物がどの様に住んでいるのかなど、水中生物の事をよく知らない事があったので参加しました。

さっそく行くと、とてもきれいで、流れがゆるやかで、水中生物が住みやすそうな川でした。とってみると、きれいな水にいる水中生物が沢山いました。なので、これからもずっと、どの川もきれいな川であり続けるために、川に物を捨てたりしない様にして、水中生物が沢山いる、松尾の美しい川を大切に、みんなで守っていこうと思いました。

緑ヶ丘中学校校歌に寄せる思い

緑ヶ丘中学校長　田中　茂伸

昭和三十四年、緑ヶ丘中学校では「新設緑ヶ丘中学校を象徴するような明るい、親しみやすい詩であること」という内容で校歌を募集しました。中学生から一般まで、老若男女を問わず、二十八点もの応募がありました。この応募作品を西尾実先生にお送りし、一篇を選んでいただきました。

選ばれた一篇について先生は「新鮮で調子もあかるく、まとまっているので、これに手を加えればよいものができるのではないかと思います。松本（民之助）さんに作曲してもらえば、中学校らしい生き生きとした校歌になるのではないでしょうか。」と手紙に記しています。

今年は校歌制定から五十三年になります。地域の思い、学校の思い、そして郷土を思った皆さんの集大成がこの校歌に凝縮されています。今年は、校歌を吹奏楽で演奏できるようにしました。中体連の壮行会などで演奏をしてますが、地域の皆様にもお聞きいただける機会があればと思っています。

生徒にとって校歌は、部活動の中でも歌われ、生活の一部となっています。そこで本年度より、学校教育目標に校歌の歌詞の一節を加え「『みどりの心』を磨き、自己を知って、真理を究める緑中生」としました。吹奏楽の音色、合唱の歌声、校庭や体育館で響き渡る生徒の声は、緑中の活気ある姿を見せています。さらに地域の期待に応えられるよう、学校をあげて努力して参ります。お支えをよろしくお願いします。

楽しいニュースポーツ

上溝　酒井　成彦

去る七月十三日に松尾小学校体育館にて「ニュースポーツを楽しもう」という催しが開催され、スポーツ推進委員の田中さんの指導の下、約二十人の子供たちがニュースポーツを楽しみました。

種目はストラックアウト、スローインボトル、キンボールの三種目で、前半、田中さんと体と頭を使った運動で体をほぐした後、三つの競技を体験しました。

ストラックアウトはおなじみの種目ですが、ボールの代わりにドッチビーのディスクを使い行いました。ディスクがまっすぐ飛ばなかったり届かなかったりしてなかなか的に当たらず苦戦していました。スローインボトルはペットボトルを半分に切った中へお手玉を投げて入れる輪投げの様な競技で、道具はスポーツ指導員さん達の手作りです。的が小さくなかなか難しい競技です。キンボールは田中さん一押しの競技で、直径百二十二センチのボールを使って三チームで攻撃と守備を行う競技です。

大きいボールに悪戦苦闘しつつもボールと戯れて楽しんでいました。